MEDICAL FRONTIER 石川県地域医療再生計画

再生計画

地域医療再生計画

【計画期間】

平成21年度→平成25年度(5年間)

【基金の設置】

国は、地域医療再生計画の内容を認 定し、計画の実行に必要な費用を「地 域医療再生臨時特例交付金」として県 に交付。県は交付金を財源とし、基金 を設置。

【基金の規模】

50億円 2医療圏×25億円

【計画を策定する医療圏】

「能登北部医療圏 | 及び 「南加賀医療圏」

選定理由

- ・人口あたりの医師数が少ない。 医師数が減少傾向にある。
- ・南加賀医療圏では、救急病院が減少 (12か所[H15]→8か所[H21])し、 医療圏外への搬送が増加するなど、 救急医療体制に課題を抱えている。

地域に医師が根づく仕組み

「地域医療再生計画」が動き出すに

小森●計画の策定段階からわたしたち とを要望されてきたのでしょうか? 県医師会としてはどのようなこ

医療というのは労働集約型産業であり、 先を自由に選べるようになったことでい に追い込まれています。若手医師が研修 いい機械や道具が揃ってさえいればでき い面はもちろんあるのですが、そもそも

ここまでのところ、 どのように評価

画期間とし、 それに基づいて医師不足地域へ医師を 計画が動きだした今、 急医療対策などが盛り込まれています。 中心に「寄附講座」を設けていただき、 については金沢大学、金沢医科大学を や看護師の確保、南加賀医療圏では救 小森●計画では、平成25年度までを計 能登北部医療圏では医師 能登北部医療圏

派遣する仕組みが形づくられたことは、

ご承知のように能登北部医療圏では医 師不足に陥り、地域医療が危機的状況 の卒後臨床研修制度が導入されて以降、 が不足している医療過疎地に、医師が ことによって能登北部医療圏など医師 保に使ってほしいということ。そうする まず医師や看護師という人的資源の確 購入などに優先的にあてるのではなく、 予算を施設の建築や高額な医療機械の が申し上げてきたのは、地域医療再生の と要望してきました。というのも、 しっかり根づく仕組みをつくってほしい

る環境にいて、 実です。できれば最先端の医療が学べ 部医療圏にいる間に、 てくるものです。 それで県や大学病院にもご協力をお願 習得できるような仕組みができれば医 報が学べて、 で、地域にいながらでも最新の医療や情 のガイドラインを身につけておきたいと 進歩して最先端の医療からとり残され で医療の果たすべき役割や責任が見え の心が通じ合える環境に身を置くこと にいかに寄り添うか、医師と患者さん いしてきたわけです。 いう気持ちは誰しもあるでしょう。そこ るような疎外感や不安を感じるのも事 るというものではありません。患者さん 人口7万6000人の能登北 定着が図れるのではないか。 なおかつ高度な医療技術が つねに新しい治療のため しかし医師の立場から 医学はどんどん

石川県地域医療再生計画

医師や看護師、救急医療の確保など地域医療が抱える課題を改善するために、 各都道府県が策定した取り組みに対して国が支援する「地域医療再生計画」が動きだしている。 平成25年度までの実施期間に総額50億円の予算が投入される事業について、 有識者はどのように見ているのか。

シリーズ一回目は、県医師会の小森貴会長にインタビューした。



生涯教育の拠点に期待

MEDICAL FRONTIER 石川県地域医療再生計画

的な役割を担うセンター

と連絡をとり

ための生涯教育の拠点になっていただき

域連携室とも連携をとって受ける

保健師さんや介護士、

各拠点病院の地

とつは在宅医療です。医師だけではなく、

きたいと思って

県や医師会、民間が力を併せて養 それにあたって看護教員が少ないの

視野をもった総合医を確保、 せていく役割も担います。

育てていく

た医療人として地域医療の質を向上さ 時に、在宅医療や訪問看護の視野をもっ あい対応していく必要があります。

師確保についても引き続き官民で然るべ

小森●一つは、医師確保と並んで看護

き対策を取っていくべきだと考えていま

そうした広い



金大病院CPDセンター(仮称) 開設に向けての整備推進

金大病院CPDセンターの概要

オープン研修を提供する共同利用型の施設として整備し、 医療人の育成・専門職能力開発・生涯教育の充実を図り、 医療レベルの底上げに貢献すること等を目的とします。

名 称: 金大病院 CPD センター(仮称) 設置場所: 金沢大学附属病院 外来診療棟4階

開設日:平成25年春 運営管理: 石川県地域医療支援センター

医療人の育成、生涯教育を図る

● 医師、看護師不足の解消や安定的な確保を図るためのプログラムの実施 1. 研修医、医師のスキルアッププログラム

バーチャルシミュレーターを活用し、 医療人のスキルアップ、医療水準の向上を図る

● 最先端のバーチャルシミュレーターによる高度医療のトレーニングの実施

IT ネットワークの活用による地域医療への支援

- 金沢大学附属病院等で行われているカンファレンスへの参加







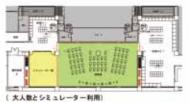
● 診療画面等を共有しながらの症例検討会・講演会等の実施など

様々なプログラムに対応し、効率良くスペースが活用できる、可動式研修室。





(中人数講義とシミュレーター研修)





PROFILE

小森 貴 こもり・たかし

金沢大学医学部卒。小森耳鼻咽喉科医院院長。開業医の傍ら舳倉島診療所に出向くなど長年、地域医療に情 熱を傾ける。平成18年、県医師会会長に就任。現在3

務であり、

それが実現できていることも

部では中核となるべき医師の確保が急

医師会として高く評価しているところで とくに派遣医師については、

化するためのIT基盤の整備や、 の医師会をつなぐTV会議システムの えています。 て引き続き確保につとめていきたいと考 いても同様に、 大変有難いと感じています。看護師につ 同時に、 県と医師会が力を併せ 診療情報を共有 地域

すが、 地区では電子カルテを導入するところで 賀医療圏を含めた全県的なネットワ める共通言語(SS-MIX)を導 たしたち医師会では厚生労働省がすす 重要な核となるでしょう。現在、 クを形成していくにあたって て要望してい ように働きかけているところです。 セキュリティの問題もあって、 るところです。 能登 南加 化は

設置による派遣医師の支援など



地域医療再生のための今後…

新の医療情報や最新の技術を学ぶ機会 レンスに参加することも可能となり、

もなるので大いに期待したいところで

る遠隔画像診断、

各診療科のカンファ

最

とえば金沢大学附属病院の専門医によ て、地域の医師や開業医にとっては、た れにしても電子カルテや

化によっ

称)」の整備が進められて うに期待されます されていますが、 大学附属病院外来棟 4 階に建設が予定 して「金大病院CPDセン 地域医療再生計画の目玉のひと これについてはどのよ

それには、 が、現役の医師にとっては、 (かかりつけ医)としての役割がますま 地域医療に携わる医師は今後、 押ししていただく拠点であってほしい。 医師の教育・訓練を生涯にわたって後 最新の技術や情報を学ぶだけではなく、 がある限り学び続けることが大切です。 ています。先ほどの話とも関連し につながる拠点になってほしいと切望し 小森●金大病院CPD 大きくなりつつあります。 専門医以外の分野についても包括 わたしたちは医師の「生涯教育」 金大病院CPDセンタ 医学の進歩 専門はも につ



新しい石川県地域医療再生計画

新計画を 国に提出。

石川県では新しい地域医療再生計画を策定し、国に 提出した。

新しい計画は、高度・専門医療機能の強化を中心に地元病院が真に必要と考える施設・機器を整備する事業を基本としており、国からの内示額約42億円を前提に策定されている。

今後、県では、国からの交付決定の後、事業費の 予算化など順次事業を実施していく。

新しい石川県地域医療再生計画

事業の概要 基金の総額 42億円程度

■ 3次医療機関における高度・専門医療機能の強化(5病院等)

- ●北陸をリードする新しい治療法の導入など
 - ・金沢大学附属病院:精密な手術操作が可能な手術支援ロボットの整備等
 - ・金沢先進医学センター:がんの免疫療法のための施設等の整備
 - ・金沢医科大学病院:臨床教育研修センター(仮)の整備
 - ・石川県立中央病院:診療情報の共有化を目指した電子カルテの整備
 - ・石川県立高松病院:認知症疾患医療センターの機能強化
 - ・金沢医療センター:カテーテル治療と手術を行うことができるハイブリッド治療室の整備

2 連携医療機関における診療機能・地域連携機能の強化等(19病院等)

- ●急性期医療
 - ・救急医療やがん診療などの診療機能の強化(主に医療機器の整備)

※特に、各地域の救急医療の拠点(脳卒中・急性心筋梗塞等の受入体制)の強化に配慮

- ●亜急性医療、リハビリ医療
 - ・亜急性病床、回復期リハビリ病棟などの施設整備など、リハビリ機能などの強化
- ●電子カルテの導入によるIT化の推進
 - ・診療情報の共有化を目指した電子カルテの導入など、地域連携機能の強化

☑ 加賀市民病院と山中温泉医療センターの統合再編(2病院)

- ●加賀市民病院と山中温泉医療センターの統合再編
 - ・マンパワーを集約化した新病院を整備し、2次救急医療体制等の強化。 また、リハビリ機能等を強化し、他の医療機関・介護施設等と連携による 地域包括ケアシステムの構築

☑ 地域医療再生基金の効果を全県に広げるための地域連携の強化

- ●脳卒中などの拠点病院制度の創設
 - ・拠点病院を中心に、救急患者を円滑に受け入れる体制づくりや、地域の医療従事者等に対する 研修会の開催など、地域連携体制を強化

※拠点病院間の連携により、高度・専門医療を必要とする患者を3次医療機関に紹介し、 急性期治療を終えた患者を地域の連携医療機関へ逆紹介する連携

- ●本県の高度・専門医療、地域医療を牽引する人材養成(先進的な医療機関への派遣研修など)
 - ・人材養成が求められている分野を中心に、3次医療機関等の 指導医が先進的な医療機関で派遣研修などを支援

※研修を修了した3次医療機関等の指導医は、県内の医療の均てん化に貢献

- ●災害医療体制の強化
 - ・災害拠点病院の自家発電装置、DMAT、通信手段等を整備し、災害医療体制を強化

※地域医療再生基金の支援対象機関に対する協力要請

- ・支援対象となる医療機関に対しては、研修会の開催、医療機器の共同利用や開放病床の運用等、 地域連携の一層の強化を要請
- ※南加賀医療圏の救急医療体制の強化、周産期医療体制の強化、診療情報の共有化のための IT基盤の整備については、現行の地域医療再生計画における対応を検討

